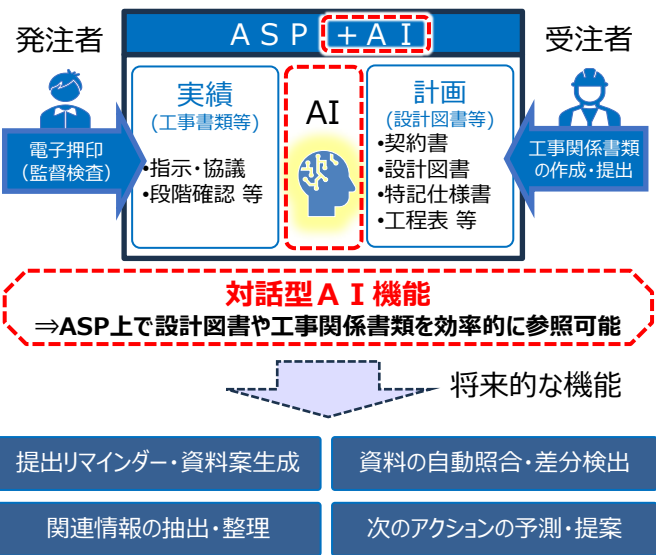


- ✓ AIを「現場で働く人の能力を拡張させ生産性向上を加速する基盤」として位置づけ、人とAIが協働し、**国民の安全・安心及び地域の豊かさの向上を目指す**
- ✓ そのため、現場からAI実装を進める「**直轄事務所等の現場でのAI徹底活用**」、AI実装を持続的に発展させるための「**産学官協働のAIデータ連携の推進**」、将来のインフラ現場を支える「**現場へのフィジカルAI等の導入**」の三つを柱として、一体的に推進する

直轄事務所等の現場でのAI徹底活用

発注者・受注者が現場でAIを積極的に活用し、業務効率化、生産性向上、技術継承の高度化を進めるとともに、その成果を自治体や中小企業へ波及させる。

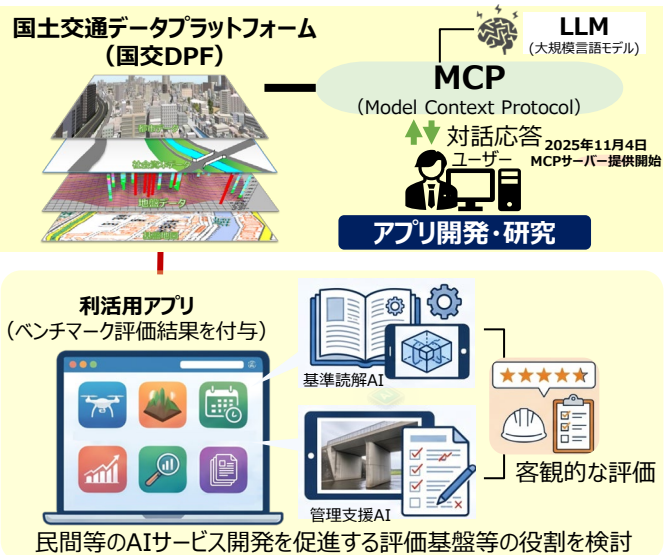
【主な取組例】
情報共有システム（ASP）に**対話型AI機能**を搭載し、受発注者のコミュニケーションの円滑化を促進。



産学官協働のAIデータ連携の推進

「日本の強み」となり得る現場に通じたデータ整備・活用を推進し、AIを介した新たなビジネスモデル含むオープンイノベーションを促進する。

【主な取組例】
国土交通DPFにおける**アプリ評価機能付与等**を通じて、民間等のAIサービス開発・実装を促進。



現場へのフィジカルAI等の導入

担い手不足や災害の激甚化等の課題に対応するため、フィジカルAI等の導入を推進し、人とAIが協働する次世代インフラ現場の実現を目指す。

【主な取組例】
現場のニーズと最新の技術シーズを踏まえ、当面に取り組む分野を設定し、導入を促進。

◇重点8分野

- ・機械施工
- ・人力技能作業
- ・現場内小運搬
- ・構造物点検
- ・巡視・点検
- ・除草、除雪、清掃
- ・災害調査
- ・災害復旧

機械施工

構造物点検

災害復旧

今後設置予定のコンソーシアムにおいて各分野の進め方を具体的に検討。短期的・中長期的な目標を見据えて取り組む。

【取組方針を推進するための具体的施策】 **AI実装を持続的に機能させ、好循環を生み出す**ために以下の3要素を戦略的・体系的に推進

人材・組織体制の構築

- ・AI実装体制づくり
- ・最新技術動向の取り込みと横展開
- ・AIを活用した人材育成

AI活用環境の整備

- ・直轄事務所等でのAI利用環境整備
- ・セキュリティ体制の確保
- ・AI臨場等による監督・検査の効率化

データ基盤の確立

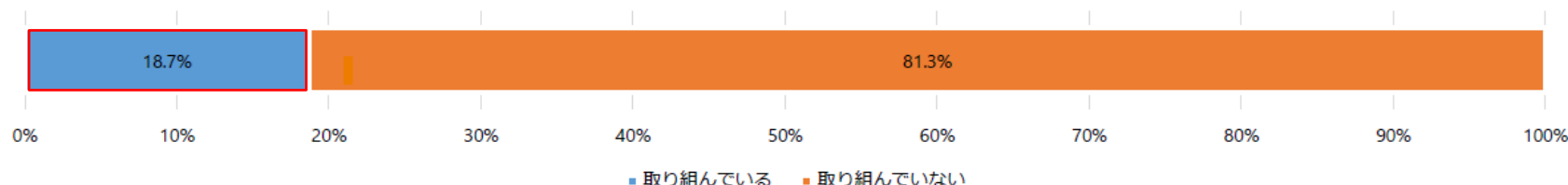
- ・成果物のデータ構造化
- ・施工データ活用ルール構築
- ・データ流通基盤の構築

○一般社団法人 全国建設業協会「令和8年度 生産性向上の取組に関するアンケート」(R8.7)

Q 3 7 AI（人工知能）を活用した会社や現場における業務の効率化・改善の取組状況は？

会社や現場における業務効率化のためにAI（人工知能）を活用している企業は約2割の結果となった。

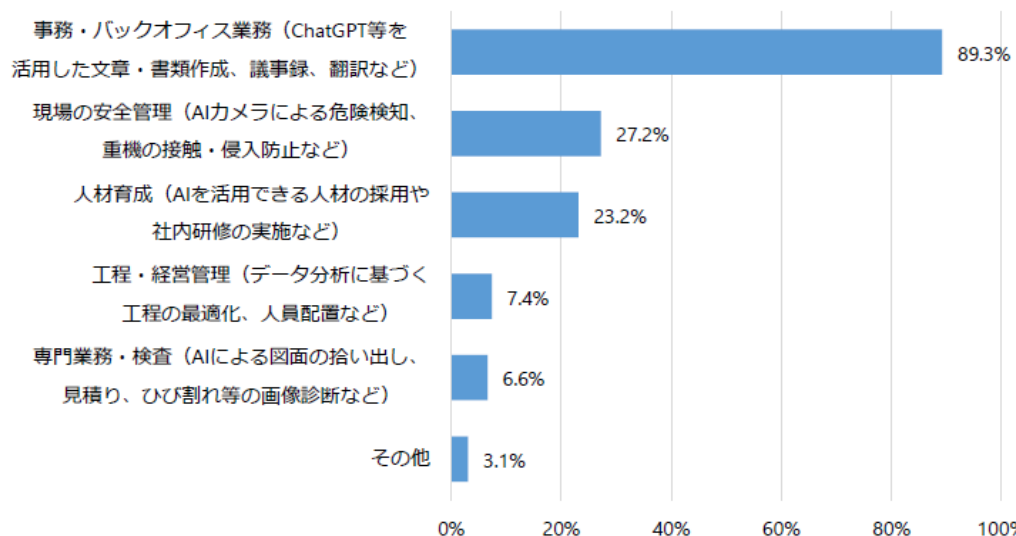
【AIを活用した業務の効率化・改善の取組状況】



Q 3 8 Q 3 7で「取り組んでいる」と回答した方のみ
AI（人工知能）を活用してどのような業務の効率化・改善に取り組んでいますか？（複数回答可）

AIを活用した業務効率化の取組としては「事務・バックオフィス業務（ChatGPT等を活用した文章・書類作成、議事録、翻訳など）」が最も多い結果となった。

【AIを活用した業務の効率化・改善の取組内容】



- 17の戦略分野等への投資を促進し、強い日本経済を実現するためには、各分野における設備投資（施設整備）を支える建設産業において、人材の確保・育成や生産性向上を推進し、供給力の向上を図ることが不可欠。
- このため、**公共工事・民間工事問わず、処遇改善・入職促進による担い手の確保、建設人材のスキルアップとDX推進等による生産性向上**に向けた取組みを強化するとともに、**外国人材の適正かつ円滑な受入れ**に取り組む。

担い手確保

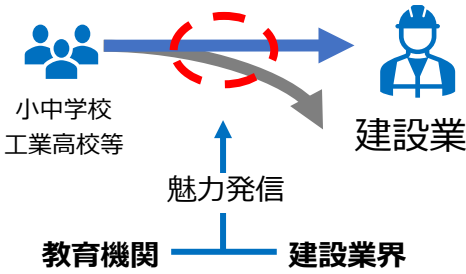
処遇改善

- ✓ 第三次・担い手3法に基づくサプライチェーン全体（発注者・元請・下請）での取引適正化を徹底

入職促進

- ✓ 小中学校段階からの興味関心の醸成
- ✓ 教育機関と建設業界等とが連携した、戦略的な魅力発信

- 1. 処遇改善
- 2. 資材高騰に伴う労務費へのしわ寄せ防止
- 3. 働き方改革・生産性向上



生産性向上

リ・スキリング

- ✓ 資格取得・スキルアップに向けた支援強化
- ✓ 新たな教育訓練体系の構築

DX推進

- ✓ 土木・建築分野において、ICT機器、AIやロボット等の先端技術の導入など、省力化投資を設計から施工まで幅広く促進



外国人材の活用

外国人技能者・技術者の
受入促進

- ✓ 外国人材の適正かつ円滑な受入れを通じて、建設分野の担い手を確保するため、育成就労・特定技能制度等の適切な運用、外国人材の中長期的な確保・育成や秩序ある共生社会の推進に係る取組等を実施

建築物のライフサイクルカーボン(LCCO₂)削減の推進(GX)と建築業界全体の生産性向上の推進(DX)を図るため、建築物LCCO₂評価の実施と建築BIMの普及拡大を一体的・総合的に支援しているところ、BIM等と連携した施工等の合理化に資する機器等を導入し、建築生産プロセスの生産性を向上する取組への支援を強化する。

背景

- ・建築生産プロセスにおける担い手不足は、今後、深刻化するおそれ。熟練技術者の高齢化も深刻であり、技術の継承が困難となるおそれ。これにより、17の戦略分野をはじめ、様々な建築需要に応えることが困難となるおそれ。
- ・BIM等との連携を図りつつ、施工等の合理化に資する機器やシステムを導入し、建築生産プロセスの生産性向上を図ることは喫緊の課題。

要求内容

- ・事業期限を延長する(令和9年度→令和13年度) **延長**
- ・支援内容について、建築生産プロセスの生産性向上を図るため、一部拡充する

① BIM活用型 **継続** ② LCCO₂評価実施型 **継続**

③-a DX実証型 **拡充**

補助対象：生産性向上が見込まれるシステム・施工等合理化機器等について、実際の建設現場等での実証費用(導入費用・効果検証費用)

＜対象システム・施工等合理化機器等のイメージ＞

有識者による第三者委員会により選定されたシステム・機器を対象

- ・ BIM等との連携による部材オフサイト化やサプライチェーン最適化による生産性向上
- ・ フィジカルAI搭載ロボ(部分施工ロボ、搬送ロボ)の導入
- ・ 3Dプリンタの導入による工期短縮・建設費低減の効果検証

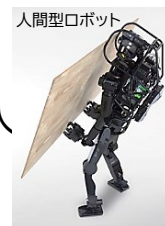
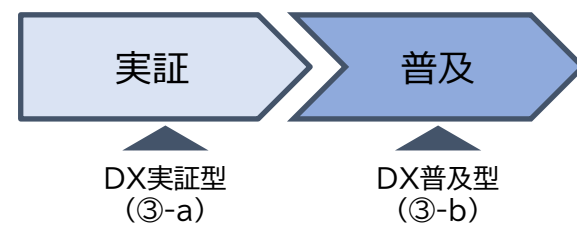
補助率：(導入費用)1/2 + (効果検証費用)定額

③-b DX普及型 **拡充**

補助対象：施工等合理化や技術の標準化を図る機器の導入
当該機器の運用に必要な費用

補助率：1/2

施工等合理化機器等の実証・普及までの支援のイメージ



人間型ロボット



双腕多機能ロボット(OAフロアの施工)



自走式墨出しロボット

第1回「持続可能な建設業及び不動産業の実現に向けた協議会」(日本建設業連合会・不動産協会)

- 1. 日時：令和8年6月1日(月) 8:00~9:00
- 2. 場所：ザ・キャピトルホテル東急「鳳凰の間」
- 3. 出席者：

- ◇日本建設業連合会
 - 会長 押味 至一 (鹿島建設(株) 会長兼社長)
 - 副会長 蓮輪 賢治 (株)大林組 副会長)
 - 副会長 相川 善郎 (大成建設(株) 社長)
 - 副会長 井上 和幸 (清水建設(株) 会長)
 - 副会長 西田 義則 (大成ロテック(株) 会長)
 - 相談役 宮本 洋一 (清水建設(株) 相談役) 事務総長 中原 淳

- ◇不動産協会
 - 理事長 吉田 淳一 (三菱地所(株) 会長)
 - 副理事長 植田 俊 (三井不動産(株) 社長)
 - 副理事長 仁島 浩順 (住友不動産(株) 社長)
 - 副理事長 西川 弘典 (東急不動産HD(株) 会長)
 - 副理事長 野村 均 (東京建物(株) 会長)
 - 副理事長 原 史郎 (近鉄不動産(株) 副社長) 副理事長兼専務理事 野村 正史

4. 意見交換項目

- (1) 建設市場における需給動向等について
- (2) 生産性の向上、柔軟な働き方の実現等について



不動産協会 吉田理事長



日本建設業連合会 押味会長



協議会の様子



挨拶する金子大臣

令和8年6月2日 金子国土交通大臣会見(抄)

…会議では、昨今の建築工事費高騰の問題を皮切りに、担い手確保、生産性向上、働き方改革や、重層下請け構造、あるいはサブコンなど、両業界を取り巻く現状や様々な課題について活発な意見交換が行われました。大変率直かつ真剣な意見交換が行われたわけですが、私自身は、そのやりとりの中で、両団体の役員の皆さまが、連携して課題解決に取り組むことや一体的に発展することの重要性を再認識されたと感じました。相互に建設的な提案をする場面も見られ、とても良い形でスタートできたものと考えています。

…今後の議論の中で、お互いの理解が更に深まり、問題意識が共有され、両団体の連携による課題解決が前に進むこと、そして、建設業・不動産業の持続的な発展はもちろん、民間同士のパートナーシップの構築と連携強化のリーディングケースとなることを、国土交通省としても大いに期待し、しっかり応援していきたいと思っています。5